

- 夏休みに向けて
- センター試験について
- 東工大出張講義報告

「人はなぜ学ぶのか」

英語科 桑原 香苗

“I am from Syria, escape war.”片言の英語で女性は言った。60歳過ぎくらいに見えるが、もっと若いのかも知れない。返答に詰まる私に彼女は悲しげに笑い、“No hometown.”と言った。

彼女は私の生徒だ。難民としてアメリカに入国して半年だという。私の教えていた難民対象の英語教室には毎週新しく人が入り、最低限の英語力もつかないうちに働き先を見つけいつの間にか来なくなる中、彼女は皆勤だった。私は2016年夏から1年間、前任校を休職しアメリカ独立宣言の街フィラデルフィアにあるペンシルベニア大学の大学院で研究していた。フルブライト奨学生として渡米し、研究以外にも“make the world a bit better”な活動をするように言われていた。英語教室の講師を務めたのはその一つだ。

学生時代の留学経験と、オンライン大学院で世界各地の英語教員と共同研究を行った経験から、自分では多様性に寛容だと思っていたがとんでもない勘違いだったと思い知った。そういったものにアクセスできる人たち限定の中での多様性なんて、多様でもなんでもなかった。

ある英語教室では、人身取引の被害者のためのプログラム“Know Your Rights”に参画した。強制送還関連、賃貸借契約、労働者の権利、女性の権利を大きなテーマとした、ペンシルベニア大学院ロースクールの学生と共同開発のプログラムだ。トランプ政権となり厳しい大統領令が多数発令される中、当時のICE(移民関税執行局)は未署名の令状を見せて家宅捜索を行っていたため、令状で確認すべき署名欄の位置も教えた。弁護士を雇う際や黙秘権行使の際の英語表現、フィラデルフィアの最低賃金や税制など、教える内容は多岐に亘った。参加者は人身売買から逃れてきた難民で、壮絶な体験からPTSDを抱える人も多い。密閉空間を避け広いロビー等で授業を行い、席の配置にも工夫が必要で、関連論文を貪り読んだ。参加者は、同じコミュニティに暮らす通いたくとも通えない人たちにも、教わった内容を伝えたいと言ってくれた。

またある別の英語教室には、学校に通った経験がなく鉛筆をうまく握れない女性が多かった。一文字一文字を慈しむように、ゆっくりと力強く自分の名前を英語で書く姿には心を揺さぶられた。名前が書けると未来へ希望が持てる。名前が書けなければ社会保障番号の申請も携帯電話の所有もできない。英語が話せなければ、話す必要のない仕事にしか就けない。数年経っても話せないままなので転職も難しい。無料の英語教室に通いたくとも、コミュニティによっては家族の男性がそれを許可しない。機会の平等性と情報へのアクセス権の有無は、性別や人種や生まれた場所でほぼ決定してしまう。

一方で、大学院関係者対象の英語教室には、フランス人カウンセラーやエクアドル人エンジニアや日本人弁護士などが通い、中には講師の私よりも英語が上手な人もいて毎週準備に苦労した。英語力を磨き、自身の専門知識や技能をアメリカでも生かしたいと前向きな姿に、学ぶという行為は一生続く営みで、強い意志と希望に裏打ちされていると実感した。

新宿高校の皆さんは、何のために学ぶのか。学ぶのは楽しいからと思えたら幸せだ。学ぶ理由の一つに、希望が持てるというのがあると学びの質が向上し長続きする。私は英語教員として、新宿生の世界を見る窓と、可能性を広げる窓を開けるサポートをし、希望を見せたいと思う。

○夏を制する者は…

ようやく夏休みです。ほっと一息と言いたいところですが、1年生と2年生は部活動と朝陽祭準備、そして3年生は勝負の夏となります。昔から「夏を制する者は受験を制す」と言われるほど、受験生にとっては貴重な40日間。なりふり構わずやるべきことに集中しましょう。

□ 学習のアドバイス

学習面では、次のことがらに注意してください。

1、2年生は

皆さんが目指していく大学で要求される力は、記述力と応用力。覚えた知識をきちんと消化し、その確かな知識力を活用して、思考し、表現するという能力が求められます。特にこれからの大学入試改革で求められる能力です。一問一答のクイズのような問題ではなく、骨のある問題、歯ごたえのある問題に取り組み、ねばり強く思考することを、是非この夏に経験してください。そこで…

◇ 学習計画は意地でも実践する。(たとえ部活動があっても、何があっても。)

◇ 学校の講習などは、自分の学習リズムを築くために活用する。(自分が主体)

◇ 1、2年生で仕上げておくべきことはやっておく。後回しにしない。そのための夏休みと位置づけて弱点強化に努める。

◇ 土台づくり。とにかく読書。「進路のしおり」に紹介してあるものを中心に、新書3冊を読み切ろう。

3年生は…

5月に実施した河合記述模試の結果からこの夏に取り組むべき課題は見えているはずです。まさに「一期の境こなり」という決意をもって取り組んでください。

志望校の合否判定で、たとえE判定であったとしても、今はまだ気にする時期ではありません。秋の模試までずっとE判定だったのに本番で合格する生徒は毎年大勢います。早く諦めたり早く志望レベルを下げたりするのが一番いけないことです。信念を持ってこの夏に努力し、さらに力をつけましょう。

3年生は夏休み初日から夏期講習が始まります。各自で予定を確認してください。40日間集中して取り組みましょう。

□ 模試の結果を次に活かそう。判定で一喜一憂するのではなく、弱点の強化に。

□ 志望校の出題傾向の把握とその対策を講じよう。教科の先生に相談も。

□ 計画通りにいかないこともある。学習状況に応じて計画の見直しが必要な時もある。

□ 不安になったら「進路のしおり」の先輩の「合格体験談」を読もう。合格した先輩方のさまざまなアドバイスがよい刺激になります。

○共通テスト関連日程の確認

共通テストに関する今後の予定は以下のとおりです。3年生はしっかり確認してください。

また、1、2年生も今後の参考にしてください。

9月8日(水) 6校時 共通テスト説明会

※『受験案内』(志願票)を配布します。

9月9日(木) 10日(金)

検定料払い込み(各自で) *窓口払い込みのみ

9月15日(水) 「志願票」校内締切

※「志願票」には「受験教科・科目数」を記入します。したがって、この時までには志望校を確定させ、受験科目を大学のHPで確認しておく必要があります。志望校は第二、第三志望ぐらいまで考えておきましょう。

9月27日(月) 「志願票」発送(学校一括)

※ 全員分を学校で一括して送ります。一人遅れると全員が遅れることになります。期限を守るためにも余裕ある準備をお願いします。

10月下旬 「確認はがき」到着

※ 志願票の記載が正確に登録されているか確認のためのはがきです。

12月中旬 「受験票」到着

※ 受験会場がきまります。

◎ このほかに、イヤホン不適合者や特別配慮申請を希望する人は必ず担任の先生に相談して下さい。

○東京工業大学出張講義（報告）

7月6日、期末考査最終日の午後、東京工業大学出張講義が実施されました。講師は、若林 憲一（ワカバヤシ ケンイチ）先生で、内容は「微生物が好きな方向に泳ぐしくみ」でした。2年生全員と1、3年生希望者が受講し、メモを取りながら熱心に聴講していました。

○オープンキャンパス等への参加

オープンキャンパス、または大学合同説明会などのイベントへの参加は1、2年生の夏の課題になっています。首都圏の主な国公立大学、および私立大学のオープンキャンパス日程はクラスに掲示してあります。事前予約が必要な大学もありますので、各大学のHPで確認してから参加しましょう。

3年生で地方の大学を受験しようと考えている人も、夏休みを利用して見学しておくといよいでしょう。

ここ数年、教育改革の一環で、大学もさまざまな改革を行っています。入試制度改革も毎年行われていて、受験科目の変更も少なくありません。また出願方法もネットで出願という大学が増えて来ています。そういう情報は、大学のHPやオープンキャンパスなどで早めにキャッチしておきましょう。

【今後の予定】

- 終業式 7/16（金）
- 夏期講習 7/19～8/26
学年ごとに予定が異なります。
- 閉庁日 8/10（火）～8/13（金）
生活指導部からのプリントも確認しましょう
- オープンキャンパス等への参加
- 共通テスト説明会 9/8（水）3年

先輩からの言葉

「大学での学びとは」

阿部 浩一（38回）

私は東京から新幹線で1時間半ほどの福島市にある福島大学で、日本中世史を専門に研究し、学生たちに歴史学を教え、学芸員資格や教員免許に係る授業を担当しています。母校の高校教員を夢見るごく平凡な一学生であった私が、結果として東京大学に進学し、研究者の道を歩むに至った経緯については、第2回の『進路部通信』に寄稿しましたので、よければご一読ください*。今回は東日本大震災10年をきっかけにお声がけいただきましたが、2度目の登場は初めてで、身に余る光栄です。せっかくの機会ですので、大学の学びとはどんなものなのか、皆さんの参考にしてもらえればと思っています。

大学というと、大教室で何百人も一斉に授業を受けるイメージがあるかもしれません。COVID-19の感染拡大の影響で授業のオンライン化が急速に進み、学びのあり方も否応なしに変わりつつあります。それでもやはり、最も大切な学びの場はゼミナールです。文系・理系、学部の規模や専門分野によっても異なるでしょうが、数名から20名程度の比較的少人数で、教員と学生が特定の専門領域やテーマについて文献輪読や実験を行い、発表や討論を通じて学問を深めていくものです。就職に強い人気のゼミに進む選び方もあるでしょうが、専門に深く切り込んでいく以上、自分がその分野に強い関心や学ぶ意欲を持っていなければ、正直いって辛いと思います。今どきの大学は出席管理も厳しいです。学部・学科選びには、将来就きたい仕事のために必要な専門性や資格などの情報だけでなく、どんなことなら意欲的に学べるのか、興味関心や適性などの自己分析も大切です。

ちなみに、私のゼミ生たちは漢文体で書かれた中世史料の輪読のほか、地震や水害の被災から救出した古文書の記録整理の実習、特定の地域を博物館に見立て、学生目線で歴史・文化遺産を再発見する「地域まるごと博物館」づくりのフィールドワークなどに取り組みながら、学芸員資格や教員免許の取得を目指して学んでいます。学生たちの地域貢献活動の成果の一部は、今夏に開館予定の福島県富岡町のアーカイブ施設で知ることができます。気兼ねなく旅行できるようになったら、東日本大震災と福島第一原発事故に遭った地域のあゆみと経験を学びに、ぜひ見学に行ってみてください。

専門で歴史を学んでも、それを活かせる学芸員や教員になれるのはごく一握りで、多くは地元で貢献したいと、自治体や民間企業に就職していきます。だからこそ、ゼミ生たちには専門外のことでも自分の頭で考え、創意工夫して解決できる応用力を身につけさせたいと思っています。そのためには、自分で課題を発見し、調べ方を探し求め、調査結果をもとに発表にまとめ、仲間と議論しあい、皆が納得するよりよい結論を導き出し、その成果を論理的にまとめるという経験が必要です。それができるのが大学のゼミです。素材は法律でも統計でも、文学でも中世史料でも、ゼミでの訓練を通して身につけるべき力是一緒です。

高校の日々の授業にも、一つ一つに奥深い学びの世界のエッセンスが散りばめられています。アンテナを高く張り、瑞々しい感性で受け止め、貪欲に知識を吸収してください。進路とは無縁に思えるような苦手科目だって、将来使うことは全くなくても、学んだ知識や経験は人生のどこかで必ず役に立ちます。学問とはそういうものです。専門的な学びへの手掛かりを模索しつつ、幅広い教養を身につけること、これが大学での学びから将来へとつながっていきます。皆さんの豊かな可能性を信じ、さらなる健闘をお祈りします。

* 平成27(2015)年進路部通信「新宿進化」No.2を進路指導室前に掲示しています。